

世田谷村日記

石山修武

十一月十九日

八時起床。九時四〇分大学。広島木本さん、他連絡。山口勝弘の聞き書き本「スーパーGigieの旅」で上がり、読む。無茶苦茶面白い。読者も是非買って読んでほしい。十五時製図公開講評会。二〇時迄。沢山課せられる科目と共に設計課題に取り組むのは学生は大変だろう。もう少しデザインをスタートさせるのは後の方が良いのだが。しかし、頑張るしかない。野心のある若者は。先生方とその後談笑して二十二時過散会。二十三時半過世田谷村に戻る。

十一月二十一日

薄曇り。寒い。今日は宮崎から藤野忠利さんが来られる予定である。山口勝弘さんと連絡。藤野さんとのコラボレーションの了解を得る。藤野さんは現代つ子ミュージアムのオーナーだ。絵本は思わぬ展開をしそうだ。させなくては。もっと大がかりに。土曜の公開講評で考えていたのも、その事だ。今の学生諸君は、要するに幼児期に良い絵本、物語り、ファンタジーに出会っていないのだ。感性の、つまり品格の自由なあらわれは幼児期にあるだろう。今の小学校、中学校の先生に、高校も大学も、それを期待するのは不可能である。藤野さんは横浜トリエンナーレの具体の連中に会いに来ている筈だから、具体からも一人選手を出してもらおう。

十一月二十二日

昨日は午後藤野忠利さんと打合わせ。具体派の歴史など聞く。今朝横浜のホテルの藤野氏と連絡、昼前に会う事となる。

ワシントンホテルで昼食。タクシーで山下公園ピアの横浜トリエンナーレ会場へ。トリエンナーレはディレクターだった磯崎さんが退き、代わりに川俣正がディレクターをつとめている展覽会だ。全体の印象は驚く程に貧しく乱雑なものだった。大学の美術部、サークルの学園祭の趣きであった。それが狙いなのか。ただ、堀尾貞治さんの百円均一アートが面白かった。十七時堀尾さん藤野さんと近くの中華街まで歩き、夕食。堀尾さんを絵本プロジェクトシリーズに参加してもらおう事にする。ワシントンホテルで藤野さんと別れ、二時過世田谷村に戻る。

十一月二十三日 休日

カバールコラム、堀尾貞治横浜トリエンナーレ書く。面白いのが書けそうだ。私のサイトは0円ショップであるな。工夫しなくては。